

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.252

2026. 10. 2

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

《署名にご協力ください！》

「私たちは戦争につながる憲法改悪に反対します」ー憲法9条改悪に反対する請願署名ー

9月末時点の集約数520筆 ※署名用紙やチラシをご希望の場合は岩手県生協連まで。

平和は戦争がないことだけでなく、みんなが安心してらせる事

ーいわて生協平和の取り組みー

<ピースアクションinヒロシマ参加報告>

被爆の実相と平和の大切さについて学び、次世代への継承と核兵器廃絶に向けた取り組みを共有することを目的に「ピースアクションinヒロシマ」が開催され、全国から75生協1,000人が参加しました。8月4日～6日に、いわて生協から組合員の代表として参加した方々の報告です。

長い間、影響を与え続ける原爆被害

たった一発の原爆によって、日常が奪われた人々の現実を目の当たりにしてきました。どれだけ話では聞いていても、やはり現地で見える現実とは全く違うものでした。戦争や原爆の被害は、その瞬間だけで終わるものではなく、長い年月を経ても人々の人生や家族に影響を与え続けるものだということを改めて感じました。

今回は親子で参加したことで、私自身が学ぶだけでなく、子どもが何を感じ、何を考えたのかを知ることができました。今回学んだこと、感じたことを家族や地域の皆さんにも伝え、平和について話し合うきっかけづくりになればと思います。（辻村彩子）



身近な所から自分にできる平和を

参加する前に、岩手県で戦争中に起きたことを調べました。私は1945年に釜石市が艦砲射撃を受け、日本（本土）で初めて海から町が攻められたことを知りました。広島や長崎だけでなく、岩手でも戦争があったことにおどろきました。「平和を守るために核兵器をなくすことも大切だけど、地球温暖化などかんきょうの事も未来の平和につながる」という意見もでました。私は、平和は戦争がないことだけではなく、みんなが安心してらせる事なんだと感じました。



実さいにその場所に立って原爆が落とされた事が本当にあったんだと感じ、戦争は絶対にくり返してはいけな
いと思いました。今回学んだことをわすれず、まずは身近な所から、人にやさしくしたり、相手の気持ちを考えた
りして、自分にできる平和を続けていきたいと思います。（辻村歩優・小4）

戦争は過去の出来事ではない

「原爆小頭症」についての講演会では、胎内被爆の影響で脳や身体に障害を負われた方々の人生や、ご家族の思
いについて学びました。胎内で被爆したということに衝撃を受け、これほどまでに長年にわたり人類に影響がある
核兵器を、今現在保有している国がたくさんあることに恐怖を感じました。「核抑止論」はあってはならないこと
だと強く思います。

「戦争は過去の出来事」ではなく、これからも起こる恐れのあるもの。ひとりひとりが戦争の悲惨さを学び、考
えを深めることで平和な未来を守っていかねばいけないと思います。（川原くみ子） ※裏面へ続く

「10月の岩手の会街宣行動」9日(金)12:30～13:00盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください！

<平和のつどい>

8月9日に、盛岡市高松の池で、31 回目の「平和のつどい」を30人の参加で開催しました。8月のピースアクション in ヒロシマ参加者の報告や、池のほとりに立つ平和祈念像「望み」に子どもたちが千羽鶴をかけ、長崎で原爆がさく裂した午前 11 時 2 分に黙とうを捧げました。岩手大生協学生委員の岩田陽輔さんは、「日常における対話や思いやりから平和を選択していくことが、戦争を知らない私たちが果たすべき役割だし未来への責任だと思います」と平和の誓いを新たにしました。



<親子ピースアクション>

県内では6企画・224人が参加しました。盛岡西コープでは「親子ピースフェス」8月8日に開催し、縁日、店内クイズラリー、フリマ、宅配、セリオの案内などでにぎわい、子ども30人含め、計50人が参加しました。3月末に全国の生協組合員が参加し、ガマ（自然洞窟）などの戦跡めぐりや戦争体験者の証言を聴く活動を通して、平和への思いを共有した「ピースアクション in オキナワ」に参加した小池佳子さんの報告も実施。子どもたちも積極的に質問し、戦争の悲惨さと平和の大切さを考えあいました。

映画「教育と愛国」盛岡上映会のご案内

2022 年公開のドキュメンタリー映画『教育と愛国』（斉加尚代監督）は、MBS の番組を映画化し、教育現場の「いま」に迫った意欲作です。2006 年の教育基本法改正以降、教科書から慰安婦や沖縄戦などの歴史記述がどう変化したのか。本作は教科書検定を通じた政治介入の実態や、「愛国心」が教育に持ち込まれる過程を克明に追います。政治的圧力に翻弄される教科書執筆者や出版社、現場の教員たちの葛藤を浮き彫りにし、俳優・井浦新の語りがその危機感を際立たせます。特定のイデオロギーによる介入に警鐘を鳴らし、民主主義の根幹である「政治と教育の距離」を私たちに強く問いかける必見の作品です。（107分）



盛岡上映会 11月7日（土）プラザおでって おでってホール ①10:30～、②14:00～、③18:00～

料金：前売券 大人 1,000 円（当日 1,200 円） 大学・高校生 500 円 中学生以下無料

プレイガイド：プラザおでって、いわて生協店舗（盛岡・滝沢）

主催：映画「教育と愛国」上映実行委員会、後援：岩手県生協連、お問い合わせ：TEL 019-652-1826

コラム＝ 「憲法 9 条改悪に反対する請願署名」の取り組みが広がっています！

－9 月 14 日九条の会ニュース 481 号より－

4 月に、九条の会など 6 団体の呼びかけで始められた「憲法 9 条改悪に反対する請願署名」が、地域、草の根で広がっています。多くの署名を集めた経験を見ると、街頭による署名活動だけでなく、各会が発行しているニュースと一緒に署名用紙を届け、後日訪問して署名集めに協力を要請したり、会員全員に署名用紙 2 枚と返信封筒を同封して送ったりして、署名活動に取り組んでもらう市民の輪を広げる活動に力を入れている会が目立ちます。ある会の世話人は、自分でお願い文書を作って署名用紙、返信用封筒とともに親戚知人に送り、70 筆を集めています。

街頭での定例スタンディングでの署名活動でも、思わぬ励ましをもらった貴重な経験が報告されています。署名活動だけでなく、地域で集会を開く試みも増えています。特に、国会前のペンライト集会に触発され、国会に行けない人も参加できるよう、地域でペンライト集会を開催し、デモカレンダーを見た若者たちが参加するという取り組みも行われています。高市内閣の改憲や軍拡の動きが強引に進められることを危惧して、開店休業状態であった

9 条の会を再会する動きも現れています。こうした地域、草の根の活動をもっと広げていきましょう。